

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-200642

(43)公開日 平成6年(1994)7月19日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

E 0 4 H 1/12

A 4 7 C 17/16

識別記号

3 0 2 B 7606-2E

Z 9032-3K

庁内整理番号

F I

## 技術表示箇所

審査請求 有 発明の数 3 (全 3 頁)

(21)出願番号

特願平3-184727

## (62) 分割の表示

特願昭60-205890の分割

(22) 出願目

昭和60年(1985)9月17日

(71)出願人 591168655

末繁 盾美

山口県宇部市新天町 1 丁目 7 番 4 号

(72) 發明者 末繁 盾美

山口県宇部市新天町1丁目7番4号

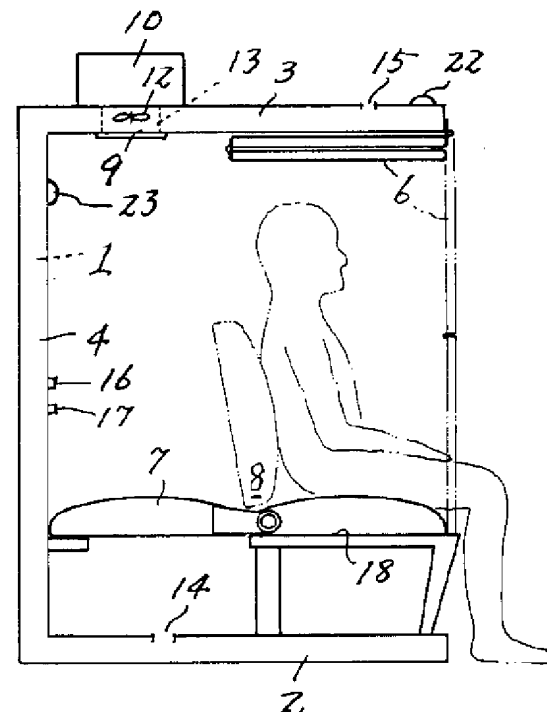
(74)代理人 弁理士 藤井 信行

(54)【発明の名称】 防音ベッド

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 本発明は昼夜を問わず就寝及び安眠に適し、離床時には横幅の広いソファーとして利用し得る防音ベッドを得ることを目的とする。

【構成】 遮音材 1 によって形成した奥行小で間口大な正面開口室よりなり、少なくとも正面を開閉自在に形成し、該室内に間口幅方向に長い座を正面側に、間口幅方向に長い背もたれ 7 を背面側に有するベッド 8 を配置してなるものである。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 遮音材によって形成した奥行小で間口大な開口室よりなり、開口部を開閉自在に形成し、該室内に間口幅方向に長いベッドを配置してなる防音ベッド。

【請求項2】 開口室が正面開口室である請求項(1)記載の防音ベッド。

【請求項3】 上記開口室内の換気や温度等の調節装置を備えてなる請求項(1)又は(2)記載の防音ベッド。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は安眠用防音ベッドに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来の防音ベッドは狭く、寝返りを行うことが困難で仮眠用としては良いが本格的就寝及び安眠には適用し得ないばかりでなく、離床時に場所を取り密室となるし、横幅の広いソファーとして用いることができず利用価値が少い(特開昭58-146672号、実開昭58-191848号、特開昭59-17310号)。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は昼夜を問わず本格的就寝及び安眠に適用し得るばかりでなく離床時には横幅の広いソファーとして利用し得る防音ベッドを得ようとするものである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため本発明は遮音材によって形成した奥行小で間口大な開口室よりなり、開口部を開閉自在に形成し、該室内に間口幅方向に長いベッドを配置してなる防音ベッド開口室が正面開口室である上記発明記載の防音ベッド上記開口室内の換気や温度等の調節装置を備えてなる上記第1又は第2発明記載の防音ベッドによって構成される。

## 【0005】

【作用】従って漁師その他の夜間労働者が朝方帰宅し正面を開いて室内に入り、ベッド上に横臥又は仰臥して同室を閉じて就寝することができる。閉鎖によって室内は暗くかつ静粛な状態となる。

【0006】昼過ぎ又は夕刻起床し正面を開いた状態となして離床し夜間作業に出動した後家族は開かれた正面から上記ベッドを横幅の広いソファーとして利用することができる。

## 【0007】

【実施例】発泡材等による遮音材1で長方形底板2、天井板3、背面板4及び両側面板5による奥行小で間口大な正面開口室aを形成する。遮音材1は硬化板、防振板等であっても差支えない。上記正面には折畳開閉板6を蝶番11によって天井側に折畳自在に垂下し同正面を密閉遮音状態に閉塞するものである。

【0008】この開閉板6にはシャッター等を用いても差支えない。上記室の内部には図示するように正面と平行方向に両側面板5、5間の間口幅と同長のソファベッド8を配置し、同ソファベッド8は中央部から背もたれ7を正面と直角方向に起伏させることができ、同背もたれ7を図2仮想線で示すように起立させ座8'の前縁を正面開口部に配置することにより正面開放時ソファーとして利用することができる。正面閉塞時には外部とは遮光及び遮音され換気扇12及び換気孔13、14、15によって換気が計られ換気孔開閉調節装置9によって通風量が調節される。換気孔から室内を覗くことができる。

【0009】又温湿度調節装置10によって温度及び湿度が調節される。尚図中16で示すものは温度センサー、17は湿度センサー、18はソファベッド8の支持台、19は開閉式デスク、20は室内電灯、21は背もたれ7の枢軸、22は室内から室外への警報装置、23は室外から室内への警報装置であって室内就寝者の急患又は室外火災等の警報灯又はベル等である。

## 【0010】

【発明の効果】本発明は上述のように構成したので開口室を閉じて昼夜を問わず暗くかつ静粛な状態で本格的にベッド上に就寝及び安眠ができるばかりでなく間口を開いて離床した状態では横幅の広いソファーとしてこれを間口一杯に利用し家具としての利用価値を向上し得るのである。

## 【図面の簡単な説明】

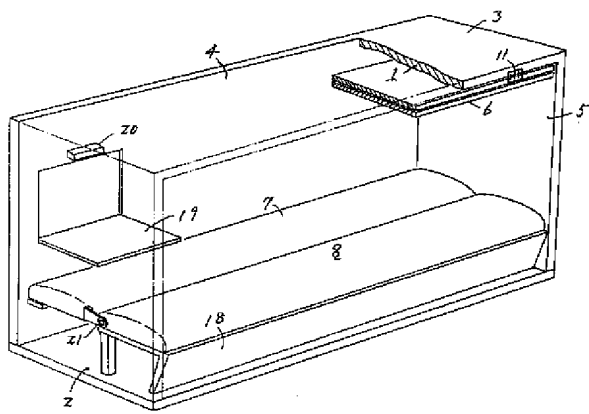
【図1】本発明の防音ベッドの実施例を示す斜視図である。

【図2】同ベッドの側面図である。

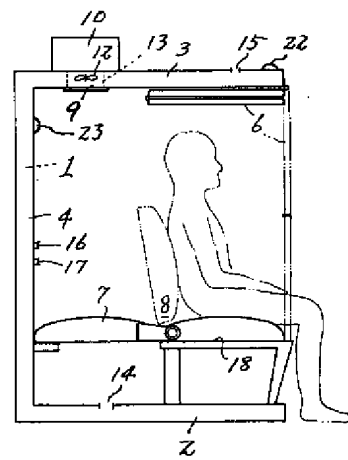
## 【符号の説明】

- 1 遮音材
- 7 背もたれ
- 8 ベッド
- 8' 座

【図1】



【図2】



**PAT-NO:** JP406200642A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 06200642 A  
**TITLE:** SOUNDPROOF BED  
**PUBN-DATE:** July 19, 1994

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
SUESHIGE, TATEMI	

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
SUESHIGE TATEMI	N/A

**APPL-NO:** JP03184727  
**APPL-DATE:** July 24, 1991

**INT-CL (IPC):** E04H001/12 , A47C017/16

**US-CL-CURRENT:** 52/143

**ABSTRACT:**

PURPOSE: To make it possible to use a sofa bed as a soundproof bed night and day by providing a front opening room composed of sound insulating boards wide in frontage and small in depth, forming the front in a bendable manner, and arranging the sofa bed in a room to make temperature and humidity control, etc., in the case the room is closed.

CONSTITUTION: A front opening room having a wide frontage and a short depth is constituted of a rectangular bottom plate 2, a ceiling board 3, a rear face plate 4 and bothside face plates 5 of a sound insulating board 1 such as a foamable material, etc. A folded opening and closing plate 6 is suspended to the ceiling side with a hinge 11 in a foldable manner, and the front is closed in a closing and sound insulating state. A sofa bed 8 is arranged to the inside of the room, it is used for a sofa in the case the front is opened, and in the case the room is closed, light and sound are insulated to control temperature and humidity by a temperature and humidity controller 10. In addition, alarm systems 22 and 23 are provided between the inside and outside of the room, so that a quiet sleep and a good rest can be obtained night and day.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio